

「レッズは10年以上もファンを裏切ってきた」犬飼基昭 「リスクをかけてもアグレッシブなサッカーに転換しないとレッズの先はない」犬飼基昭 「選手一人ひとりがすさまじい執念をもってほしい」塚本高志 「レッズは眠れる巨人。その巨人もついに目覚めのときが来たんだ」ハンス・オフト 「やっとオフトが浦和に来てくれた」福田正博 「僕らも悩んでいたし、迷っていた。いったいこのチームはどうなるんだろうって正直不安だった」平川忠亮 「今はレッズのこと頭がいっぱい」田中達也 「本当は勝って決めたかったけど、こんな優勝もうちらしいね」山田暢久 「サポーターも喜んでくれただろう。僕はそれで十分満足している」ロブソン・ポンテ 「浦和レッズという素晴らしいクラブから誘いがあったから、移籍を決断しました」小野伸二 「スピード以外にもいろいろなものをチームに取り入れなくてはいけない」ギド・ブッフバルト 「レッズの敵はレッズ」イビチャ・オシム 「アジアを制して世界と互角に戦う強いクラブを目指します」藤口光紀 「戦術面に関して、ギドは特に指示をしない。だったら僕ら選手が修正しよう」山田暢久 「オフトがやったことは、単調な基礎練習の繰り返し。でもチームは強くなったし、僕も成長した」鈴木啓太

ビッグクラブ

浦和レッズモデルができるまで

地を這う取材が生んだ赤の歴史書。本音で語る選手・フロント・スタッフ。生臭いビッグクラブ誕生のドラマがここにある。

島崎英純著 3月30日 講談社刊

定価：本体 1600 円（税別）

Jのお荷物が、成績、観客動員数、
収入すべて日本一になる

負の連鎖からの脱却はいかにして行われたのか？

2001年10月埼玉スタジアム2002の

オープニングゲームから始まった、

浦和レッズ再建のストーリー。

「サッカーダイジェスト」浦和レッズ

担当記者として、6年間にわたり密着取材を続けた

筆者が見たものはなんだったのか？ 2002年オフト監督

就任から、J1制覇までの日々を選手、関係者の証言を元に追った渾身の1冊。

「強い浦和レッズ」の原点がここにある